

各地から

渋谷 名古屋 合同ワークショップに参加して

野宿者の人権を守る会(名古屋) / だいごろう

はじめに

1月4日(日)、名古屋の仲間たちにとって初のワークショップ(以下、WS)が行われた。前日の、どしゃぶりの雨の中で行われた笹島団結ソフトボール大会の熱気も覚めやらぬ中、大阪の仲間は予定があったため残念ながら参加できなかったが、渋谷・名古屋の仲間が合同で「自らが住みたいと思う仲間の家」とは? というテーマでWSを行い、熱い意見が飛び交った。

名古屋において、これまでも仲間と支援者による「寄り合い」を積み重ねてきていたが、「仲間」の声と言いつつも、実際には常にどこか支援者の価値判断が入ってしまっていたかもしれない。そういった問題点を改善するひとつの取り組みとして、WSという仲間同士の意見の中から、自分たちが求めているものを紡ぎ出していく作業は、仲間たちにとって新鮮だったと思う。

後日、WSに参加した仲間達に感想を聞いたので、以下それぞれの中で印象に残った仲間の「声」を中心に報告する。

仲間の感想

まずWSについての感想では、「普段あらたまって他人の考えを聞くことないから、皆が何を考えているのか知ることができたよ。」「相手の意見を批判しない、他の人が話している間は

話さない、というルールがあったから話しやすかった。」「仲間から意見がこもるとは正直驚いたね。」「といった意見が出た。

ただし、「(皆が)本音で言ってるのか、面白半分で言ってるのか分からなかった。」「何をやるのか訳も分からんまま終わったって感じだよ。」「という意見もでていた。また「仲間たちだけの内輪の意見と、WSの話とでは、仲間の意見が違っていた。何だかよそいきな言葉に聞こえたんだよね。」「といったように、ファシリテーター(活発な議論になるように上手に意見を引き出す人)として支援者がWSに加わった事によって本心を出せなかった仲間もいたという弊害も見受けられた。

WSの後半で行った、「仲間の家に求めるもの」のランキング表(2)の結果に関して、「まあ、当然の結果かな。」「という意見が圧倒的であり、名古屋の仲間はかなり冷静に受け止めている様だ。しかし、それだけに留まらず「一部の仲間だけの意見だけではなく、もっと多くの当事者の意見も聞かなくちゃいけないね。」「こういう会を積み重ねることが大事。」「こういうことは積極的にやるべきだね」といった建設的な意見を述べている仲間が多い。そして今後WSを行う場として、皆は口をそろえて具体的に「仲間の日」を上げている。(今年の4月から野宿者の人権を守る会で「仲間の日」を始めた。当事者主体の共働炊事と寄り合いを、月1回行っており毎月150名以上が集まる行事である。)

こうした場合、「活動に参加していない、色々な仲間の意見をもっと聞かべさだ。」という意見が当事者から出てきたことは大変心強い。

反省点と今後の課題

一番の反省点は、「仲間の家」について考えようとした今回のWSのテーマを「シェルターに対する要望を出す」

とすることで、仲間の意見がこもるという弊害を減らすことができた。また、WSのテーマを「仲間の家」にすることで、仲間の意見がこもるという弊害を減らすことができた。また、WSのテーマを「仲間の家」にすることで、仲間の意見がこもるという弊害を減らすことができた。



ことだと思って発言していた仲間が少なくないという事である。また、先ほどの「何をやるのか訳もわからん……」に代表されるように、WSを行う上で参加者全員にその趣旨を理解してもらおう、きちんと説明する必要があると感じた。

時間の長さは、参加した仲間たちにとってどのように感じたのだろうか。今回は、3時間ぐらいのWSであったが時間の長さについては意見が「長かった」「短かった」のふたつにきれいに分かれたので判断は出来なかった。時間のかかり具合はWSのテーマによって左右するので、むしろ段取りの面で今後の課題としたい。これには仲間から「途中でお茶を出したらどうか。」「といった意見が出たのも参考になる。

グループの人数に関しては、「10人以下」が大所帯になりすぎず自分の意見も出せてちょうど良いとの意見が多かった。

ファシリテーターについてもふれておきたい。私は3箇所のグループを比較する作業に回った。各グループに参加している仲間一人一人の性格を加味する必要もあるが、ファシリテーターの力量によってこもる仲間の意見の出かたが違ってくるかと正直驚いた。特に印象に残った教訓は以下の3つである。

ファシリテーターは必要以上にしゃべらない。
仲間の発言にファシリテーターが意味付けをしてはいけない。
皆が自分の意見を話しやすいような雰囲気をつくる。

とても当たり前の事なのだが、こうして見るとこれらの教訓は決してWSだけにとどまらないものなのかもしれない。これまで支援者が無意識のうちに仲間の「声」に脚色を加えていた弊害を乗り越え、真に仲間の「声」を紡いでいく方法として、WSはここ名古屋の地でも取り組む意義がある。

1 ワークショップ

参加者が10人前後のグループに別れ、ファシリテーターを司会役にして、設定されたテーマについてそれぞれが意見を出し合うという手順を踏む。この時に、「相手の意見を批判しない、他の人が意見を言っている時は話さない」といった共通ルールを設けることで、できるだけ参加者の意見(本音)を出してもらおうとするのがワークショップの趣旨である。

2 ランキング表

WSの各グループで出た意見を踏まえてその中で意見の重複を省き、表に書き写したのを使う。そして改めてその表にある項目の中から、個々の参加者が自分にとって必要だと思うものについて、手持ち10枚のシールを好きな枚数だけ張るといった作業(ランキング)を行なう。これにより参加者全員にとって何がニーズとして高いのか、それを視覚化し参加者全員に共有してもらおうことがランキング表の趣旨である。

ランキング結果の抜粋

「仲間のいえ」をつくらせたら何がほしいか?

ランキングトップテン

1自由	14票
-個室	14票
-番号で扱われない	14票
4医療相談	12票
-三食のメシ	12票
6フロ	11票
7行政から金が出る	10票
-出入り(門限なし)入退所)の自由	10票
9年齢制限なしという入所条件	9票
10食堂	8票

挙がった項目の一覧票を作った後、ひとり10票もって投票しました。トップ10は概ね予想範囲内なものでしたが、そのほか、冷蔵庫よりテレビの需要が高い、夫婦家族用部屋も6票入るなどの結果も出ました。全体の結果よりも、個々の仲間の投票行動やリストをじっと眺めている仲間たちの真剣な姿の方が興味深かったというのが正直なところ。その後、全員でリストを眺めながら、あだこうだと話をしました。また、最後にファシリテーター役を担った名古屋の支援者と簡単に感想を語り合いました。その場でやりとりした結果、「自分が仲間のことがわかっていなかったことを痛感した」「グループにおけるファシリテーターの役割が、うまくいくもいかないも、ふだんの活動における活動家の役割の縮図だ」「各班を巡回していて、ファシリテートするというのが、どうやったらうまくいか、どうやったらいけないのかなどを含めて、イメージできた」といった意見が寄せられました。